

# ひびきあい

シニアアンサンブルのための楽器知識

## 〔18〕オールドバイオリン その2

Vnの本体は全て木で作られ接着剤は動物の骨が材料のニカワですから湿気さえ注意すれば何年でも使用出来ます。その典型的な例がオールドVnで、中には350年も前に作られたものが未だに20数億円で売買され使用されています。

今号ではその代表的なものをご紹介します。

### 《アマティとスタイナー》

この2人のVn作りの功績について前号でご紹介した通り、1800年頃までは最も人気が高かったのですが、その後の演奏会場の大型化と共に弟子の作品に最高位を譲りました。しかし未だその評価は高いものがあります。アマティはストラディバリとガルネリの師匠で、スタイナーはバッハやモーツァルトも彼のVnを使用したと云われるなど人気を誇りました。

### 《ストラディバリ（以後、ストラドと略します）》

Vn作りと云えばストラドと言われるほどマニアに尊敬されています。彼は推定1644年頃に生まれ1737年になくなっていきます。

17歳からアマティに弟子入りしてなくなる年まで実に77年間もひたすら弦楽器を作り続け、作った本体は約2600本で、現在は約600本が世界に残っていると云われています。その内訳は殆どバイオリンですが、ビオラ、チェロ、バスも含まれています。

1本当たりの単価は30年前で5億円と云われ、また現在では24億円とも云われ、希少価値としてますます投機的にも値上がりしています。

彼の作品は当時からよく鳴り、音色も美しかったので、王侯貴族や寺院が自分の資産と楽団の備品用に買い求め、その価格も高かったため、彼は大金持ちになり、2度結婚し11人の子供に恵まれ、幸せな人生を送っています。彼の作品が近年、世界で最も評価されるようになり、他の全ての製作者は彼の作品の規格を採用しています。

ストラドVnの所有者は時代と共に変わり、現在では一部のプロ奏者の他に銀行、財団、博物館やお金持ちが財産の保全のために購入して新進で有望な奏者に貸与したりしています。ウィーンフィルの最前列のVn奏者はウィーン国立銀行からの貸与されたものを使用しているようです。

戦後、辻久子が自宅を売却して購入したり、千住真理子が近年、代金を工面して購入した事が大きな話題になりました。



### 《ガルネリ デル ジェス》

アマティに弟子入りしたガルネリのVnも評価が高く、一時サラサーテが使用していたと言われますが、ガルネリを一躍有名にしたのはイタリアの奇才パガニーニが3代目のガルネリデルジェスの作品を愛用し、超絶技巧による演奏でお客を驚かせ、1830年頃のヨーロッパに大旋風を起こしたからです。そのVnの音色はストラドよりも高く評価する人もあり、仕上げはストラドほどではないが価格も同等のようです。

但し、ガルネリデルジェスは少し気まぐれのところもあったようで製作本数は250本と少ないようです。世界的にはハイフェッツが使用していました。日本では戦前戦後は諏訪根自子、最近では五嶋みどりが使用しています。

### 《ガダニーニファミリーと ガリアーノファミリー》

オールドVnは上記のほか数多、ありますが特にガダニーニ一族はクレモナを中心に250年間（8代）に亘って活躍して有名であり、2代目のG・Bガダニーニの作品（1750年頃）は最近ますます評価が上がってストラドやガルネリよりも高く評価する人もいます。ガダニーニ事件というニセ物Vnの悲劇でも有名です。

ガリアーノ一族はナポリを拠点として4代続きましたが、初代の1750年頃の作品がガダニーニと同様に評価が高いようです。

### 《これらの銘器は誰が弾いてもよく鳴るか？》

昭和50年頃にNHK総合TVで5本のVnの中から一本のストラドのVnを聴き当てる番組が放送されましたが、的中率は20%でした。

20数億円のVnは確かに音色はよいが現在の100万円以上のVnと際立った違いはないようです。ストラドを使っている千住真理子さんの感想では「Vnが難しいフレーズをクリアしてくれる」と言っており、ある人は「弾き心地が違う」と言っています。また、「遠達性（遠くまで音を響かせる）に優れている」という人もいます。何れにせよ、入手しても自分と一身体になるぐらいに弾き込んで自分のものになっているようです。

最近SEの団員の中にも高価なVnに買換える人も散見されますが、周囲で聴いていて楽器の音色と共に本人が弾き込むので演奏力も向上し、大幅に上達するようです。やはり奏者にとって楽器は命、よく弾き込み、楽器が一段と響くように可愛いがりましょう。

（全シ連 岡村、つくばSE 小泉安治氏助言）